



第11号

# 西予市復興まちづくり かわら版

令和元年10月10日

発行 西予市復興支援課  
電話 0849 (62) 1455

## 第5回 のむら復興まちづくりデザインワークショップを開催しました！

### ■ 第5回ワークショップの開催

西予市復興まちづくり計画に基づき、野村地域の復興まちづくりについて、市民の皆様と話し合いを深めながら検討を進める場として、「第5回 のむら復興まちづくりデザインワークショップ」を開催しました。

愛媛大学 社会共創学部 松村 暢彦教授の進行のもと、愛媛大学や東京大学の学生の皆様の協力を得て、参加者の皆様から様々なご意見をいただきました。

### 【第5回 のむら復興まちづくりデザインワークショップの開催概要】

日 時：2019年9月25日(水) 19:00～

会 場：西予市野城総合福祉協会

主 催：西予市

協 力：愛媛大学、東京大学復興デザイン研究体

参 加 者：24名（野村地区自治会、社会教育団体等の公的団体代表者、西予市内在住者 等）

進行補助：愛媛大学、東京大学の学生

主な内容：

○第4回 のむら復興まちづくりデザインワークショップの振り返り

○災害時の避難について（平成30年7月豪雨災害時の避難の状況）

○グループワーク①

テーマ①：**肱川（宇和川）と川沿いの空間整備・利用案**

✓ 第4回ワークショップで皆様からいただいた意見をもとに作成した整備案を提示し、避難行動も踏まえたうえで、整備案や更なる提案に関する意見交換

○グループワーク①の発表

○グループワーク②

テーマ②：**日常生活サービスの維持・更新**

✓ 第2回ワークショップの意見を踏まえながら、日常生活サービスの維持・向上に向けた活動や整備のアイデアについて意見交換

○グループワーク②の発表

○次回開催日（10月24日（木）19:00～、場所：西予市野城総合福祉協会「野城ふれあい館」）



主旨説明



グループワーク



グループワークの発表



意見の貼付け

### ■ ワークショップの開催結果

今回のワークショップでは、5つのグループに分かれて、テーマごとに意見を出し合ったあと、全体的な発表を実施しました。

「肱川（宇和川）沿いの空間整備・利用案」に関しては、避難行動を踏まえた整備案に対する意見などがあげられました。

「日常生活サービスの維持・更新」については、「飲む村、野村」を継承していくための公共交通のあり方や野村の資源を活かしたストーリーづくり、高齢者等の生活を支える買物支援のあり方など、ユニークなアイデアをいただきました。

## ■ワークショップの意見の一例

ワークショップの開催結果として、グループごとにいただいた意見の一例を示します。

### ■テーマ①：肱川（宇和川）と川沿いの空間整備・利用案

#### ■乙亥・まちなかエリア（乙亥会館周辺）に関する意見の一例

- ・商店街と乙亥・まちなかエリアを結ぶ仕組みを考える。
- ・乙亥会館で平成30年7月豪雨災害に関する写真展等を開催し、来訪者に伝える。
- ・計画地の中心となる乙亥・まちなかエリアに“野村ならではの温泉を整備する。温泉の運営のため、住民が株主になる。

#### ■コミュニティ施設・管理施設等に関する意見の一例

- ・計画地は浸水想定区域内にあり、管理施設等は垂直避難ができるような高さとする。
- ・コミュニティ施設（緊急避難施設）は、安全な場所へ整備すべきではないか。
- ・コミュニティ施設を整備する際は、豪雨災害時の最大浸水深がわかるようにする。

#### ■避難のあり方に関する意見の一例

- ・豪雨の際は「早目の避難が大事」ということを、住民一人ひとりが意識する。
- ・地域の避難行動要支援者等の方をきちんと把握しておくことが大事。
- ・地域ごとの避難のルールを決める。
- ・右岸の人は右岸側で、左岸の人は左岸側で避難できるような条件整備とルールづくり。
- ・避難したくなる施設（避難所）を確保する（避難を目的とした施設、お風呂のある施設等）。
- ・来訪者等にもわかりやすい案内標識やｽﾍﾟｰｽの設置。

#### ■施設の管理に関する意見の一例

- ・地域や各施設の利用者が、草刈り等の維持管理に協力できるような体制を検討する。
- ・子どもたちが遊び感覚で参加できるような草刈り大会などが検討できないか。

### ■テーマ②：日常生活サービスの維持・更新

#### ■1班で出た意見の一例

- ・必要なときに、必要な車を出せるように調整可能な移動手段を地域で準備する。
- ・地域で利用できる食堂・台所を整備する。そこで、巻きようかんなどの作り方を学ぶ場、子育て支援等につなげていく。

#### ■2班で出た意見の一例

- ・野村の豊かな資源を活かし、町外から人を呼び込む。
- ・温浴施設は、一人暮らしの高齢者等の集まる場としても重要な施設となるので整備が必要。
- ・商店街の活性化に向け、休憩ｽﾍﾟｰｽを確保し、周遊できる、散歩できるようにする。

#### ■3班で出た意見の一例

- ・シルク博物館とほわいとファーム、肱川の3つの資源を組み合わせ、織姫と彦星、天の川を連想させるストーリーを創って七夕イベントの開催（防災も含めたイベント）。
- ・「飲む村、のむら」の文化継承のため、夜間快速循環バスを導入する。

#### ■4班で出た意見の一例

- ・店などはもちろん、まち全体でバリアフリー化に取り組む。
- ・若い人の定住のためには安心してできる仕事があることが不可欠。農業と商業の組合せによる地域ブランドの創出に取り組む。
- ・自分が取り組むという意識が大事。

#### ■5班で出た意見の一例

- ・空き家・空き地を活かして学習塾などの充実。多様な年代が学べる地域塾とする。
- ・いろいろな食事ができるように欲したい。
- ・大和田地区の「わいわい市」の復活や移動販売サービスの提供など、気軽に買い物ができる条件整備。

【お問い合わせ先】 西予市 復興支援課 電話：0894（62）1455